

大学生は図書館を活用しよう

—ケータイ・メールの「3分ルール」は中止しよう—

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. 今日は本題に入る前に、「3分ルール」についてお話をさせていただきます。「3分ルール」というのは、ごく一部の小学生・中学生・高校生の中で、携帯電話で自分にメールが来た場合に3分以内に返事を送らないと友だち関係が失われてしまうということを言い表したことです。これについてはぜひお考えいただきたいと思います。友だちとメールのやり取りをするのは素晴らしいことかもしれません。ただ、返事を送るのを3分以内に、または何分以内などと決めてしまうと、忙しいときもありますし一人ひとりには都合がありますので、できればそのようなルールは作らないでいただいて、自分の自由なときに返事をする・返事を送りたくない場合はしないようにするとしたほうがよいと思います。高校生などは深夜まで起きている方がたくさんいらっしゃいます。友だちからメールが来たらそのメールの返事を3分以内にしなければならぬので、その方たちの中には携帯電話を持ったまま寝る方まで出てきているそうです。ここまでになると度が過ぎますので、「3分ルール」を考え直し、携帯電話の使い方・メールの使い方を「常識的」なものにしていきたいと思います。
3. さて、話をこの番組の本題である「効果の上がる学習の仕方」に移します。先週の4月10日(水)に白鷗大学経営学部にお招きいただき、商学総論という講義を1時間半させていただきました。白鷗大学には柳川高行先生という私の尊敬する先生がいらっしゃいまして、その先生が学生達に経営者の話を聞かせたいということで私を呼んでくださいました。非常に光栄なことなので、お話をさせてもらいました。
4. テーマは、「持続可能な企業づくりを目指して—社会的使命に基づく経営—」についてでした。まず初めにお話をしたのは、「経営とは何か」についての「定義」です。漢字では、「経営」の「経」は「経る」という字を書き、「営」は「営み」という字を書きます。そこで、経営とは「営みを経

て目的、目標に達すること」だと私は考えます。「目的」というのは最終的な到達点・ゴールのことです。最終的な到達点・ゴールに達するために通過しなければならないいくつかのマイルストーン(一里塚)を、私は「目標」と考えています。1つ1つのマイルストーン(一里塚)を通過しながら最終的な目的地に到達する、これが「営みを経て目的、目標に到達する」という私の「経営」の「定義」です。この定義に基づいてお話をさせていただきました。

5. 出発点からゴールに行くまでは、1つ1つ経なければならない・克服しなければならないことがたくさんあります。それを1つ1つ克服しながら進んでいく。よくPDCAを回すといわれます。PはPlan(計画)、DはDo(実行)、CはCheck(検証)、AはAction(修正)のことです。これを経営のことばで「PDCAを回す」というのです。「計画を立てて実行して検証し、最後に修正をする」。これを経営の場面で1つ1つ行う。これが、「営みを経て目的、目標に到達する」という「経営」だというお話もさせていただきました。

6. 最後に、白鷗大学の経営学部の学生としてこれからどのような勉強をしたらよいのかというお話をさせていただきました。大学生として一番大事な勉強の仕方の1つは、図書館の活用です。やはり学生は本を読んだり、インターネット等でいろいろなものを調べたりしなくてはならないので、一番活用すべきなのは図書館だと思います。

7. 私は大学生のときに法律を勉強していました。法律を学ぶ学生は勉強する量が非常に多いので、朝、図書館が開くと同時に入館して、夕方、暗くなるまで、時々、夜の閉館時間まで図書館にいる。その合間に授業を受けに教室に行くという生活を何年かしました。図書館には、新聞もありますし雑誌もあります。経営学部のある大学の図書館であれば、経営を勉強する上でのいろいろな本や雑誌もたくさんあります。学生がいる場所としては図書館が一番よい場所の1つかもしれません。ですから、経営学部の学生は1日1回は図書館に行って、ドラッカーやマイケル・ポーター、コトラーという経営学でも基本的な先生方の教科書を読んだりするとよいですね。ドラッカーという先生は有名な方なので皆さん御存知かもしれません。マイケル・ポーター先生は戦略論の先生、コトラー先生はマーケティングで世界的に非常に有名な先生です。

8. また、自宅で取っている新聞だけではなく、大学生であればそのほかの新聞も毎日読んだほうがよいと思います。数紙の新聞を毎日なめるように読む。元気のある方は英字新聞を読んでみる。英字新聞は日本の新聞とは違った見方をします。英字新聞を読んでみるのもおもしろいです。読める人は、英語以外の外国語の新聞も読む。できれば興味のある記事を書き取ったり要約をしたりしてノートを作るのもよいですね。

9. 自分一人ではなかなかお金が大変で購読できない雑誌もたくさんありますね。経営学関係であれば、「一橋ビジネスレビュー」や「ハーバードビジネスレビュー」などは非常に素晴らしい雑誌として有名です。それらも図書館に行けばあります。図書館のよいところの1つは、そのような雑誌のバックナンバーが保存して取ってあることです。自宅で保存するのは場所的にも大変ですが、図書館に行けば昔の雑誌からすべて読めますので、そういうこともやったほうがよいと思います。
10. 自分の大学の図書館だけではなく、県立図書館や市や町の図書館も大いに利用しましょう。よくお願いすれば、ほかの大学や地元の高校の図書館も利用できる学校がたくさんあります。
11. 学生時代は社会人と違って少しはゆっくりできるときですので、古典をゆっくりと優れた古典などたくさんあります。夏目漱石や森鷗外など明治時代・大正時代の方もいらっしゃいます。その方たちの本が図書館に行けばいくらでもありますので、ぜひ読んでいただきたいと思います。余談ですが、村上春樹が古典かどうかはまだわかりませんが、古典になるように頑張っていたいただきたいと私は思います。
12. このような形で、経営学部の学生に図書館を活用して勉強したらどうかという御提案をさせてもらいました。先週の4月10日(水)に白鷗大学経営学部の柳川先生という私の尊敬する先生から、商学総論の講義の一部を依頼されましたので、今日はそのお話をさせていただきました。皆様も中学校や高校、大学に行って、社会人の立場でぜひいろいろなお話をさせていただけると有難いなと思います。

— 2013年7月4日加筆・訂正、林明夫 —